



# 心和得天真

～心和して天真を得る～



山口市立大歳小学校  
学校だより  
令和6年12月

## 考えて いろいろ考えて うんと考えて

子どもたちが使用している国語の教科書には、優れた作品が数多く掲載されています。中でも複数学年にその作品が掲載されている谷川俊太郎氏が逝去されたと先日報道されました。数多くの授業を展開させていただいた者として哀悼の意を表します。谷川氏のたくさんの作品の中でも、すぐに思い浮かんでくるのは、2年生の教科書にある「スイミー」です。

ご存じの通り、「スイミー」は、絵本作家のレオ・レオ二氏の代表作の一つであり、谷川氏の翻訳により、日本の子どもたちにも広く知られる物語です。校内音楽会では、2年生が音楽劇として、表現豊かに発表をしたことでも、印象に残っておられる方もおられることでしょう。

真っ黒な小魚であるスイミーは、きょうだいたちを飲み込んだ大きなマグロから逃げ、一匹、広い海をさまよいます。しかし、海で出合った「すばらしいもの」「おもしろいもの」に元気づけられたスイミーは、新たに見つけたきょうだいたちに、「海でいちばん大きな魚のふりをして」泳ぐことを提案し、大きな魚を追い出すことに成功します。色鮮やかなレオ・レオ二の挿絵と、明快なストーリー、リズムカルな文章により、いつまでも心に残る作品の一つです。

大人になってこの物語を読むと、様々なメッセージが込められているように思えます（私のよくないクセですが…）。個性を生かすこと、広い世界で様々な体験を見聞きすることの貴重さ、脅威に立ち向かう勇気と協働の価値…。この度、少し注目したいのは「考えること」。

レオ・レオ二氏の原文は「Swimmy thought and thought and thought.」。そのまま訳すと「スイミーは考えて、考えて、考えた。」です。それを谷川俊太郎氏は「スイミーは考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。」と訳しました。55年前の和訳ではありますが、あたかも今求められている資質能力を伝えているようにも思えてきます。

10月に県内の5・6年生が取り組んだ「山口県学力定着状況確認問題」の質問紙調査には、次のような質問項目があります。

- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている

教科書にある知識や技能を習得することはもちろん大切です。その上で、上記質問から分かるように「課題の解決のために考える」「学び方を考える」「考えを深める」「新たな考えに気付く」など、既習の知識や経験を踏まえ、他者の考えも取り入れながら考え、たくさんの情報の中で何が大切かを判断し、相手に的確に伝えていく力も重要視されています。

大歳小ウォークラリー、チャレンジ学習(5年)、町探検(2年)、地域学習(3年)、全国学校体育研究大会(1年・6年)、人権の花バルーンリリース(1年・4年)、少年綱引き大会、各委員会が企画運営した集会、大歳まつり…。11月には数多くの取組が校内外で行われ、子どもたちは数多くの人・もの・ことと出会い、経験を重ねました。また、教員の研究授業も多々実施し、多くの教員の参観のもとでも、堂々と学びを展開する子どもたちの姿が印象的でした。スイミーが広い海で経験したように、未知の経験の数々は、子どもたちの「いろいろ考え、うんと考えるための材料」となり、「大きなマグロ」のような困難に立ち向かう土壌となることを願っています。



全国学校体育研究大会の様子

さて、今年も残り1ヶ月となりました。2024年を笑顔で締めくくることができるよう教職員一同「一ぴきの大きな魚みたいに」一丸となり努めてまいります。